

ケンタの  
再起動。  
- 5 -

通算26号

# 中曾根外交 レッシブス ン1

大阪10区  
(高槻市・島本町)

## ケンタの一撃！ 成人「祭」ってなんですか？ 騒々しい場合は中止すべき

「き～み(ザワザワ)～が～よ  
～(ザワ)は～(ザワザワ)」。  
国歌の斉唱中に私語が絶えない。  
成人式に来賓として出席する度  
に暗澹とした気持ちになる。

別に若者の髪が何色だろうが、  
化粧が派手だろうが、文句を言  
うつもりはない。だが、成人を  
祝う場での幼稚な振る舞いはあ  
まりにも情けない。一方で、こ  
の責任をいま時の若者や「戦後  
教育」にだけ押し付ける気もな  
い。むしろ責められるべきは、  
この野放図を許す側にある。

成人式は市町村によって主催  
されるが、私の選挙区を含め、  
いつのまにか「成人式」の多く  
が「成人祭」と名を変えて行わ  
れている。そこには、「式典」  
ではなく「祭」だから静粛にし  
なくていい、させなくていいと  
でもいう行政の責任放棄の姿勢  
が透けて見える。

求められるべきは「覚悟」で  
ある。「静粛にできないのであ  
れば、式は中止します」そう言  
うぐらいの覚悟と気迫があれば、  
問題は解決するのではないか。

### 松浪ケンタのプロフィール

#### 【役職】

衆議院環境委員会理事、同厚生労働委  
員会委員、同議院運営委員会委員、自  
民党厚生労働部会副部長

#### 【経歴】

昭和46年、大阪府生まれ。高槻市日  
吉台六番町在住、家族は妻と長女  
清風高校を経て早稲田大学商学部卒  
元産経新聞記者

平成14年、衆議院補欠選挙で初当選  
翌年の総選挙で次点

平成17年9月の総選挙で8万360  
7票を得て小選挙区から国政に復帰し  
た。自民党の2期生では最年少

#### 【特技・趣味】

プロボクサーライセンス取得、空手初  
段。ギター、オートバイ、魚・カメの  
飼育、英語(TOEIC Aレベル)

### 松浪ケンタ後援会事務所

〒569-0804

高槻市紺屋町11-1 FKビル2階

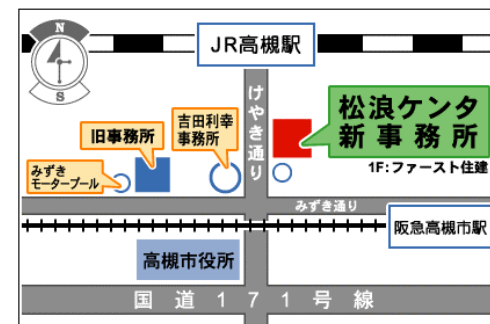
Tel: 072-685-7188

Fax: 072-685-7189

URL: <http://www.kentakenta.com>

E-mail: [info@kentakenta.com](mailto:info@kentakenta.com)

発行：自由民主党大阪府第十選挙区支部  
責任者：上田 光雄 《部内討議資料》



# 中曽根外交 レッスン1

～ アジア太平洋議員フォーラム参戦記 ～

通算26号

## ◆ 議員による国際会議

「拉致(abduction)を入れるのなら、話し合いは終わりにさせていただく」

「話し合いの席を立ってしまうというのは、いくらなんでも失礼ではないですか。ここはあくまでも話し合いの場でしょう」

韓国代表团と激しいやりとりが交差する。これは私が参加したAPPF(アジア太平洋議員フォーラム)的一幕。APPFは、東南アジア諸国や、中国、韓国、アメリカやチリなど太平洋に面する国々に呼びかけられて結成された国際会議。現在APPFの名誉会長である中曽根康弘元総理が、「政府の方針にとらわれることなく、自由な発想のもとで国会議員が議論する場をつくろう」と呼びかけて始まった。

14回目となる今年の会議は、インドネシアの首都ジャカルタで1月15日から20日までの5日間にわたって開催された。私は、島村宜伸団長、谷川秀善副団長に加え、民主党、公明党、社民党など9人の議員からなる日本代表団の一員として参加した。

## ◆ 息づく中曽根イズム

国会議員が議論するとはいえ、外務省のスタッフの手助けも借りるわけだが、今回もっとも驚いたのが、各国との交渉などを外交官に指揮しているのが、中曽根元総理の田中秘書(48)であったということ。外交官をも凌ぐような秘書が存在することに政界の奥深さを痛感した。田中秘書からは、晚餐会の合間などに各国と根回しするタイミングなど、中曽根外交の一端をお教えいただくことができた。

また、各国の代表も中曽根元総理のことを驚くほどよく知っており、今も中曽根外交が息づいていると実感した。

この会議では、各国がそれぞれの決議案を提出し、起草委員会→執行委員会→本会議の順番で各国の決議案を一つにまとめ、さらにすべての加盟国で決議する。私が担当したのは、「エネルギー安全保障」と「朝鮮半島の非核化」に関する決議案だ。

エネルギー安全保障については、日本とロシア、インドネシアの3案を、私がとりまとめをさせて頂いた。これには新聞記者時代に培った、ポイントをまとめる文章力が随分と役立った。



APPFの閉会後に議長席の前で記念撮影  
= 1月20日、インドネシアのジャカルタ・ヒルトンホテル

## ◆ 仁義なき外交最前線

しかし、問題が起きたのは朝鮮半島の非核化について。韓国と中国が「拉致(abduction)」という文言を入れることを頑なに拒絶し、逆に「APPFに北朝鮮を参加させろ」と主張する始末。韓国側もハンナラ党の代表は「拉致については、北朝鮮は弁解の余地がない」と理解を示したが、肝心の起草委員会に出席するのは北朝鮮寄りのウリ党の代表で、冒頭のような激しいやりとりにまで及んだ。

さらに韓国側は、起草委員会で席を立つのみならず、交渉再開後、別の部屋で行なわれていた本会議に北朝鮮の参加問題を抜き打ち的に持ち出してきた。紆余曲折の末、「拉致」という文言を共同声明に決議するのではなく、付属文書(annex)に載せることで双方が妥協することで落ち着いた。まさに右手で握手をしながら左手で殴るような外交の現場を体験できたことは、これからの大きな糧となった。

国益と面子がぶつかり合う外交の場に比べれば、品がないと揶揄される我が国会の与野党のやりとりも、実に紳士的なもの感じられてくるから不思議なものだ。

松浪健太